

令和元年度 第2回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 令和元年8月20日(火) 15時00分～16時30分

<開催場所> 宇治市役所議会棟3階 第3委員会室

<出席者>

多田 重光	宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事
真山 達志	同志社大学 教授
川口 龍雄	京都府山城広域振興局 局長
服部 広志	株式会社京都銀行 宇治支店長
西村 徹也	連合京都南山城地域協議会 事務局長
大橋 晶子	株式会社京都新聞社 南部支社長
小長谷 敦子	公認会計士
高田 悦子	特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事
寺川 徹	市民公募委員
日野 真代	市民公募委員

計11名

<事務局>

木村 幸人	宇治市副市長
貝 康規	政策経営部長
萩野 浩造	政策経営部副部長
中嶋 久子	政策経営部行政経営課長
本間 雅人	政策経営部行政経営課副課長
川瀬 理恵子	政策経営部行政経営課経営推進係長

計6名

<傍聴者>

1名(報道関係者含む)

<会議内容>

1. はじめに

2. 開会

- (議事) ①宇治市まち・ひと・しごと・創生総合戦略にかかる中間総括(案)について
②人口ビジョンの方向性について
③スケジュールの見直し

委員長) ありがとうございます。それでは議事に入ります。議事の第1ですが、「第2期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略等の策定について」ということでございます。では、事務局からご説明をお願いいたします。

《資料に基づき事務局から説明》

委員長) ありがとうございます。ただいまご説明いただきました内容について、委員の皆さんからご質問をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員) 94 ページで LINE (ライン) での情報発信についてですが、私も登録していてよく拝見させてもらっています。市役所からかなって思うくらい絵文字が入っていて可愛いメッセージが届くので、大変見やすいなって思って拝見させていただいています。たくさんの方が登録されているんですけど、これはどういう風に皆さんに広めておられますか。私はロコミで教えてもらいました。実際に広まって、実際どういった方が利用されているのか、もしわかれば教えていただきたいのと、最近高齢者の方もスマホをほとんど持たれていまして、皆さん絵文字が楽しいみたいでたくさん使用されているので、子育て世代だけでなくそういった幅広い世代にも LINE (ライン) で情報発信していくことも考えておられるのか、お願いします。

事務局) LINE (ライン) でございますけども、平成 29 年 7 月から実施しておりまして、こちらにも記載されていますように、昨年度で行きますと、2200 件だったのが 1000 件くらい登録者が増えた状況になっております。登録の案内につきましてはホームページに掲載しておりますが、子育て世代に全戸配布させていただいております子育て情報誌にも、LINE (ライン) をやっていることを掲載させていただいておりますし、保護者の横のつながりやロコミからも広まっていると考えております。年齢層については、詳細は我々のところでは把握できていない状況です。就学前の全戸世帯に配布している情報誌から広まっている状況を考えると、子育て世代の方々に登録されている状況かなと考えております。

委員) 子育ての担当させていただいているので、今の話に付け加えさせていただければ、子育て広場に来ていただくお母さんに各広場で LINE (ライン) を勧めているのと、こんにちは赤ちゃん事業で、各家庭に最初の一步ということで、「もし登録してなかったら絶対いいよ」とお願いしているので、おっしゃったとおり

前年レートの乳幼児のお子さん。あと付け加えなのですが、先ほどの各家庭に当時定年年層にも乳幼児のお子さんにもトラブルを起こしているのかなと考えております。

96 ページにも利用統計がたくさん書いてある1から9まで広場があって、今ちょっと広場の方も7つ目の広場の方も自動開催されるようになった。新しく広場が設けられるようになって、7つ目の広場の方も修吾開催され、今人数とか解説が書いてないのでたぶん人数だけ見ると、これキツインじゃないって単純計算で、地域格差で広場を毎日見るところがここしかない。でもほかの地域では5日も開かれている。なるべくほかのところに予算の方があってもいいかな、検討していただければなおもいます。

委員) 高齢者の方にもこういう LINE (ライン) で情報発信がされているのでしょうか。

事務局) 高齢者の LINE (ライン) を用いた情報発信は、申し訳ございませんが、現在のところは行っていない状況です。しかし、子育ての登録数が増えているという状況もございますので、LINE (ライン) というのはいろいろある中で、有効な形であると思いますので、ご意見を参考に検討してまいります。

委員) LINE (ライン) を使っておられる高齢者が増えているなという実感があるので、高齢者の方にも有効ではないかなと感じました。

委員) 労働者のことで、労働相談に関するフリーダイヤルというのがあり、そこですょちゅう電話がかかってくるのが30歳、40歳代の方です。そういった方の話を聞くと、「6か月や12か月で雇用がいつ切られるかわからないし、結婚もできひんし、子どももできひん」とおっしゃいます。そういった方の約4割が非正規雇用です。そのような中で、出生率が2060年に2.07とかは程遠く、夢のまた夢やないかなど。それと、観光の関係でいうと宇治市は他の市町村から見ると羨ましいと言われます。やはり宇治市だけでやるというのではなく、たとえば宇治田原や和束町とかと連携をとってから。泊まる人が少ないと落ちるお金も少ない。そういう考えを宇治だけでなく宇治田原や京都府と意見交換しないと解決できない。

それと雇用の関係で、宇治市はいろんなところから補助を出しておられる。京都府連合協会が2年ほど前に奨学金が300万400万しました。結婚するのに700万800万かかるとこんなもん子どもできまっかいという事を聞いたことがある。そういうこ

とに関しても、京都府が作ってくれたこの3つが奨学金を役割分担がして、負担を少なくするシステムがあると思うんですけど、そんなんをもっともっと紹介していく。今、他府県から府下で働いていた人もやっていたけど、今はそういうシステムは緩和されていますから、そういうのも利用していくのはどうかなと思います。

事務局) 出生率2.07は、国や京都府の推計も参考にさせていただきながら、宇治市の総合戦略におきましても、職住近接があるという事が定住につながる、または子育ての世代の流入につながって行くのかなと考えておまして、5つの基本目標に定めておまして進めているところでございます。

観光につきましては、先ほど京都府との連携と話を頂戴いたしましたがお茶の京都をターゲットにして各自治体や京都府との連携を図りながら、28年度のから引き続き取り組んでいる状況でして、宿泊については確かに課題があるところもあると考えておりますが、各自治体と連携を図りながら、観光の振興に努めていきたいなと思います。

奨学金については勉強不足ですが、そういう制度つきまして活用できるというお話を頂戴しましたので、宇治市として取り組める事業がありましたら、この総合戦略に位置づけまして取り組みを進めたいと考えております。

委員) 35 ページ、魅力の深化事業で重要文化的景観の選定がまだ進んでないのは何故か教えていただきたいのと、景観に関して言えば、宇治のまちの魅力を知らなくために、宇治でやってみたらいいなと思うのが、街歩きというイベントです。近江八幡市がうまくやっていて、まちの中の町屋とか使わなくなった工場とかそういったものをうまく利用しながら、そこに合わせた配置を考えて、それは行政ではなくNPO法人がやっているんですけど、パスポート持って観光客がうろうろできる仕掛けができておまして、回を重ねるごとに人が増えてきてまちの魅力を感じられる。ここにこんな町屋があるのか、いつも入りたいなと思っていた。けど入れない。こんな商店があったんだとか、いろいろ気付くチャンスになる。非常に面白いイベントになる。それが始まりで、いろいろ催しが流れ込んでくる。必ずしも行政が前面に出てこなくても、ちょっと後押しをするだけでお金をかけずに街を仕掛ける。京都市内でも京都開きと言って、文化財の写真取れたり、町屋とかいろんなところを歩いたりして、ああいう仕掛けは文化資産が多い宇治なら十分できるなと思おまして、観光客を増やす仕掛けができたらいいなと思います

事務局) 先ほど街歩きでいろいろまちの魅力を発信するという事で、宇治市におきまして20 ページに記載されている宇治茶巡りのガイドツアーという事で、宇治茶をテーマにしまして茶園や茶問屋または茶工場を巡る無料のガイドツアーを実施させていただいておりますけど、なかなか人数も増えていない状況もありますので、こういう

こと含めて課題はあるのかなと考えております。行っていただいた上で、周遊していただいて、魅力を感じられるような仕組みが必要だと思いますので、ご意見をいただいた事例なども見させていただく中で考えていかなければならないと思っています。

文化的景観でございます。今、文化的景観につきましては、中宇治の地区の所を指定しております、将来的には黄檗山 萬福寺等の含めた黄檗地域、又は白川の茶園を含めまして白川地域に文化的景観の拡大を目指していきたいと考えておりますけど、現在その取り組みが進んでない状況でございます、令和元年につきましては、予定ですが、令和2年度に向けて取り組みを進めている状況かと思っております。

委員) 2ページで、KPIについて8つの目標を達成したという事で、宇治市の総合戦略のKPIの項目数でいうと何個あるのですか

事務局) 合計35のKPIを定めて進捗管理をしているという状況でございます。

委員) 進捗管理をする上で、KPIの達成状況を数値的に追いかけてきましたが、自治体にはそれぞれの年度ごとの達成状況がどうなったのかと、1年目2年目の積み上げた進捗がどうなったのか。こういう数字のアプローチで進捗状況を抑えていく。こういう中で一番重要なKPIが出生・人口の社会動態、こういった辺りがなかなか芳しくない。京都府の昨年度までの進捗具合で言いますと、数値的にはそこそこ増えていきますけどキーとなっているKPIはなかなか道筋が出てない。課題が出てきている。そういう評価を相対的に比べて、今回この中間総括が、やはり今後の第2ラウンドに創生総合戦略を策定するにあたって、特に強化すべき課題、これを洗い出すための総括しようという大変重要な資料になっております。こういう風に思いますと、5つの基本目標を中間総括していただいているのは、大変ご苦労だと思うのですが総合戦略全体としては、総括の評価に今後取り組むべき課題、こういった事に2ページには書いては頂いてはいるのですが、できればこういったあたりをもう少し具体的に又は丁寧に書いていただく方が、次の第2ラウンドの次期総合戦略の策定の方角に繋がっていくのかなと思います。

事務局) おっしゃてるKPIにつきましては今後、地方創生総合戦略を策定するにあたりましては、当然重要になると考えておまして、2ページの内容ですが、PDCAサイクルにてチェックしていただいて次のプランに生かしていくというような作業の内容に関して、もう少しKPIの情報を入れさせてもらって修正させていただきたいなと思っています。

委員) 中間総括として、大変資料をまとめられました。その中で、KPI と計画性と予算がちゃんとかみ合っているのかなと思っているのと、重要文化的景観地区について同じ目標が3・4年書いてあるので、今後はこのKPIを外された状態で進められることもあるのかなと思います。あと予算の話をしましたけど、たとえばKPIの中で全体的には人口減少に対する新しい事業が増えているのかなと思うんですけど、昔からある事業はKPIがそんなに上がっていない。たとえばコミュニティ関係の事業に参加している率が下がっていたり、出生数も目標に立てられている数も7500。92ページの子育て支援環境事業で子どもを産み、育てやすい環境だと感じる人の割合、このKPIのそんなに高くもなく、そんなに悪くもなっていない。一方で、出生数で基準値は7557人で目標数はもう少し上で、この27年度の数字を全部足すと目標値の5130人と1427人足りない。18ページにですね、宇治茶巡りの参加者が27年～29年度と比べて30年度は落ちている。その主な事業の内容が30年度は一日に二回が一回にしました。目標としているのが、1000～1200となっているが30年度に関しては予算の問題かもしれないですけど、整合性みたいなものが全体的に不透明なのかなと思います。

事務局) KPIにつきましては、中間総括を見ていただいて、いろいろご意見を頂戴する中、改めてどういう風なKPIがいいのか第2期に向けては検討していきたいと考えております。出生率とか予算の兼ね合いもございますけど、KPIを定めているのに事業が減少しているのではないかというご指摘もありますが、当然今後KPIを定めるにあたっては、施策を充実していく活動力を増やしていかなければならなくて、当然予算と事業との整合をきちんと見据えた上で、総合戦略を作っていけないといけないのかなと思っています。総合戦略を作るにあたってのKPIの策定をどのように定めるのかは検討していこうと思っています。今回下がっているところとご指摘していただいた課題分析しないといけない所があり、例えば出生数の22年～26年がどう違っているかを抑えた上で、今後どう取り扱うのかを改めて今後の案という形でお示しできたらと考えております。

委員) 93ページの育成学級の開設学校数がずっと同じで、全体の学校に対する割合を教えてくださいたいのと、子どもころ、宇治文化少年団に入っておりまして、知らないことがいっぱいあって教えていただいたりして、興聖寺が昔の軍事基地だったり耳を貸せばいろんな文化的資源いっぱいあるなと思ひまして、やっぱりいろんなところに連れて行ってもらって、宇治に対する愛着にも伝承にも繋がると思ひまして、小学生のころの鮮明な記憶が必要ではないかと思ひます

事務局) まず一つ目の育成学級につきましては、現在20校からの増加はないという事でございますけど、市内の小学校につきましては20校設置させてもらって、山間地域の

2校に関しては育成学級というわけではないんですけど、放課後事業活動行っております。小学校の時に記憶に残る教育活動という事になりますと、宇治市では小学生等が宇治市のことをあまり知らない、平等院にいった事がないというようなこともございますので、宇治学の一環でそういうところにバスで訪れるツアーや宇治茶の勉強もしておりますので、そういうところから宇治への愛着に繋がればと考えております。

委員) たくさん項目の中ですべての項目を達成するのは難しいですけど、その中で地域魅了度ランキングの調査では33位で、令和元年では29位の目標値に向けて是非頑張ってくれたらと思います。項目が非常に多いですから、これからの5年でもう少し強弱を、優先順位を付けるといいますか、その中で達成状況を上げていく方法を見つけた方がいいのかと。それと102ページの学習環境等充実事業の「理科が好きな児童生徒」が平成30年度の直近の調査で中学3年生は平成27年度が54.3%だったのが46.3%とここだけ大きく下がっている。これは原因を分かっておられるのであれば教えていただきたいと思います。

事務局) 今回の総合戦略で5つの基本目標を設けておりますけど、こちら5つに関しては国または府の創生総合戦略を参考にしました基本戦略ということでございます。具体的な取り組みとなる事業につきましては、施策に寄与する貢献度も異なってきますので、そこら辺の事業の効果も見極めながら事業に取り組んで行こうと思います。強弱というのが効果的に取り組めるのか、今後案を出すときには検討しながら進めてまいりたいと思います。

理科が好きな児童生徒の割合が減少した原因ですが、こちらの要因が京都府が今調査を行っているのですが、把握分析が我々行政経営課の方ではわからないのでわかり次第ご報告します。KPIについては進捗具合を含め、次のKPIを定めるにあたってはこれがなぜ下がったのか現分析をして、次に進みたいと思います。

委員) 京都府の理科は好きな人の数値が3%上がっているのに宇治市は下がっている。もう1つ気になっているのが中学校に上がる不安割合の数値が急に上がっている。小学生の基準値が34.1%、その2年後くらいで20%も上がっている。中学生になればそうでもなかったと。小学校の先生方も疲弊されている。先生方も予算が宇治市からカットされたので、この話で言うと強弱が必要なんじゃないかなと思うのと、子どもが安心して暮らせるから宇治に住むわけで、それが隣の町が全然安全じゃとなると当然流出するし、小学生の満足度になると小学生がどんな動揺をしているのか。宇治市の公立小学校・中学校でKPIを見ると、計画を立てなきゃと思います。

事務局) 先ほど教えていただいた中学入学への不安の割合もこの間においても小中一貫校

連携で取り組みを進めているところでございます。当然一貫校という事で、施設一体型の整備もでございます。当然分散型も含めて小中一貫校の教育を進めていきたいと思っております。不安割合の増加の KPI の状況は、申し訳ございません。先ほどの理科教育も含めて行政経営課の方でも把握できてない所もでございます。確認はさせてもらいながら、改めて取り組みに対して進め方を検討していかなければならないと思っております。

委員) 中間総括に関わることではないかもしれないんですけど、子育て支援のところでは宇治市の方では産前産後の事業も始まりまして、来月 10 月からは幼児教育の無償化が始まり、ほんとに悪い話ばかりじゃなくてプラスのことも多いんですけど、今、アンケートをたくさん使ってることも多いと思うんですけど、当事者の声がやっぱり聞ききれないという事をすごく感じていて、これから長期的にこの事業を見通していくために具体的な声を拾っていく方がいいんじゃないかなと考えております。子育て広場をやっていますが、たくさんいらっしゃっていて、お父さんとお子さんも来てくれる。10、20 年前は考えられなかったけども、フラットな感じで。子育てはお母さんのものではなくて、お父さんもお子さんと遊びに来たり、1 日 60 人もの方に来ていただいたりしています。その中で少子化って言いながら第 2 子を妊娠中という中で広場に遊びに来てくださる。広場の中で赤ちゃんを見るとやっぱり欲しくなるというすごい効果があるんじゃないのかなというのと、1 回出産すると短期間で退院というのは現状厳しい。先月出産された方は帝王切開ですけど、1 週間で退院されたそうです。私の時は 2 週間ゆっくりできたのに、今はそういう状況もあったりします。

それと宇治の中では待機児童がゼロという事ですけど、実際は入りたいところに入れないという方が多い状況なんですけど、広場で話を聞いていたらお母さんたちはやっぱり家計が大変なので働きたいという方がいらっしゃいます。でも実際、保育所に預けておられない。今、幼稚園が昔と違っているのは、保育所に入りたくて宇治市の中でも認定こども園も増えて、保育所の人数も増えてどんどん拡大していても預けたい人が増えていっているのが現状なんですけど、逆に幼稚園がすいていたりして、幼稚園も長期保育をやっていたりして 18 時まで預かってくれて、お母さんたちも夏休みとか春休み冬休みのどこかで預かってもらう。保育所に関わるというか、使えるところで使う。働きたい人は働けるというような、そこも大切なんですけど、そういうのって話をする広場の中に入って初めてわかることなので、子育てに限らずいろいろなところで、たくさん出ている課題もアンケートと実際の現場を見て、現場の声を取り込んでいようにして頂いた方がいいと思いました。

事務局) さまざまな子育ての環境というところでは、おっしゃっていただいていますようにやっぱり保育所限らず地域での子育てできる環境は大変重要なことかなと考えて

おります。幼稚園の役割も仰っていただいたように、いろいろ選択肢があるというのは1つの魅力になるのかなと思いますし、幼稚園の預かり保育があり、3年保育の取り組みも試行的に実施しているところでございます。そういう取り組みを見ながら、今後子育てに幼稚園をどういう形で政策として位置付けていくのかは検討していかねばならないと考えております。

委員) 77ページの産業関係の地域の活力づくりについて、できればここに今年の3月に産業戦略を策定されているので、書いてはいただいているんですけどさらっと書いていただいている状況なので、もう少し書いていただけたらなど。また、産業戦略の中で具体的な目標設定もされていると思うので、それも書いていただけたらなどと思います。それに関連して、27ページの宇治茶のブランド化で主な事業として、産業戦略策定費が記載されていますが、一般の方に産業戦略に費用が入っていたらわかりにくいと思うので、別の形のものがいいのかなと。

事務局) 産業戦略につきましては、次の総合戦略策定するに当たっては1つのファクターになると思いますので、地域の経済というところも主力になってきますし、産業戦略に定めておりますそれぞれの施策の目標も決めております。その連携も図りながら初案等を作成していきたいと思っております。

委員) 子どもさんの不安の話で、子どもの不安は親の不安や社会への不安が連動しているのではないかと考えていまして、先日、聞いた話ですが、社会に対して不安をお持ちの方や子育てに不安を持っている方が多かったのも、そういう方の不安が子どもたちの不安につながっていくと思いますし、そういう意味では親や子育て世代は安定した仕事についているとか、産業を活性化していくことが、改めて重要なんだなと思いました。なかなか強弱をつけるのは難しいのかもしれないですけど、私たちにも見やすいように、どういった施策を行われているのかをわかりやすいようにしてもらえたらうれしいです。強弱をつけないといけないですけど、子育ても産業も全部力入れて欲しいと思っております。

委員長) 全体的に多岐に渡ってやってもらっているのが非常に大変だと思っておりますがよろしくをお願いします。

事務局) 次期総合戦略では、人口ビジョン実現が一つ主な目標になると思っています。そういうとき、先ほど頂戴した子どもの不安をどういう風に払拭すれば人口減少の歯止めにつながるのかという観点で見ていくのも必要かなと思っています。ただ、総合戦略で考えていくのは子育ての不安というのが、例えば預ける場所といいますか地域での繋がりとかというような不安を取り除くという事でございますけど、ど

ういう形が人口減少の歯止めにつながるのかも検証させてもらいながら、どんな事業や施策を定めることができるのか改めて考えてまいりたいと思っています。どこまで不安をなくすことができるかは検討させていただく必要があるのかなと思います。

委員長) 時間の関係もございますので、次の「人口ビジョンの方向性について」に行かせてもらいます。

《事務局の説明》

委員長) ありがとうございます。人口ビジョンの方向性についてご説明聞かせていただきました。ご質問やご意見がございましたらお願いします。

委員) 人口ビジョンはどこでどういう風に使うものなのですか。まち・ひと・しごと創生総合戦略だけの話なのか、総合計画の話なのかちょっとそのへんの教えてください。ば助かります。

事務局) こちらの人口ビジョンにつきましては、今後のまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定にあたって目指す人口、将来の人口を定めるものでありまして、それに目掛けて人口を維持するためには、増やしていくためにはどうすればいいかを考えて行くという内容のものになっております。

委員長) 目指すべきもの施策がありますので、必ずしもそれがそのとおりになるというわけではないという事もありますし、そもそも人口を予測することが難しいところがありますので、いろんな統計を使いながら最終的にはこれでいこうと決めるしかないという事でございます。さっきご説明があったように、宇治市ではこれで行こうとなりますのでご了解いただけますでしょうか。それでは人口ビジョンにつきましては、事務局に従って進むということになります。それでは、スケジュールについて事務局からご説明をお願いします。

《事務局の説明》

委員長) スケジュールを少し後ろにずらすという形になるというご説明でした。ご質問あるでしょうか。

委員) 1 つだけなんですけど、12 月市議会で議決していただけないとなかなか難しいかなと。実際に京都府がどういうスケジュールにしているかは、私は把握していないの

ですが、国の新しい枠組みでの地方創生ですと、令和 2 年からスタートしていくと思うんですよ。2 月市議会で議決していただくと、令和 2 年の当初予算にも関わると思いますし、12 月市議会でこの案をお示しいただけたらと思います。

事務局) 12 月の初案もこの推進会議の内容をまとめて整理させていただいて 12 月 17 日とありますが、担当の常任委員会にご報告をさせていただけたらと思います。

委員長) 策定スケジュールについては、京都府議会が日程がはっきりしないともございますが、最終的には少し余裕ができた。今回は第 2 期という事で、ちゃんと検証して定めていく必要がありますから拙速に決めるよりは、じっくりと検討ながらより良いものを約 2 か月後ろ倒しといいますか、このようなスケジュールで行くという事で、この推進会議での日程も当初よりはこういう感じになりますがご了解いただけるでしょうか。はい。ありがとうございます。それでは事務局の方でお示しいただいたスケジュールの方で進めていくという事でご了解させてもらったことにさせていただきます。ほかに何かあるでしょうか。それでは、本日の議事につきましては、すべて終了しました。進行を事務局にお返しいたします。

3. 閉会